

# IB・MYP

International Baccalaureate  
Middle Years Programme



## 昌平中学・高等学校



国際バカロレア[MYP]認定校 埼玉県初



Inquirers[探究する人]

Thinkers[考える人]

Knowledgeable[知識のある人]

Principled[信念をもつ人]

Caring[思いやりのある人]

Open-minded[心を開く人]

Communicators[コミュニケーションができる人]

Risk-takers[挑戦する人]

Reflective[振り返りができる人]

Balanced[バランスのとれた人]

2018



# 国際バカロレア教育 [中等教育プログラム]

## 変わり続ける社会で活躍するために

グローバル化や技術革新が進み、社会は大きく変わりました。技術は発展し続け、人工知能やロボットがこれから人間の仕事を奪っていく可能性が指摘されています。今の小学生が未来を生き抜き、活躍するのに必要な力を身につけるため、本校は国際バカロレア (IB) を導入しました。IBは、国際バカロレア機構 (本部：スイス・ジュネーブ) が提供する国際的な教育プログラムです。世界140以上の国・地域において5,000校近くがこのプログラムを導入しています。また、近年は文部科学省もその普及・拡大を推進しています。IBは年齢に応じてPYP、MYP、DPの三つのプログラムに分かれます。昌平中学校は、2015年3月1日にMYP (中等教育プログラム) の候補校になりました。以降2年間をかけて研修、授業実践等を行ってきました。これらの取り組みが、IB機構による厳格な審査により認められた結果、本校は2017年3月17日よりMYPの認定校になりました。昌平中学校では1年生から3年生の全員を対象に、MYPの授業を日本語で行っています。

## IBの理念

IBの理念は次の「IBの使命」、「IBの学習者像」によって明確化されています。

### ◆ 国際バカロレアとは ◆

国際バカロレアは、1968年、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして設置されました。世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格 (国際バカロレア資格) を与え、大学進学へのルートを確認することが設置の目的です。世界140以上の国・地域、約5,000校において実施されています。

国内では、2013年に閣議決定された「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」に基づき、国際バカロレア認定校を200校に増加させることを政府は目標としています。2016年時点で、国内には39校の認定校 (MYPは11校) があり、現在も増加を続けています。その他にも、大学入試改革や学習指導要領の改訂等を通じて思考力、判断力、表現力等を子どもたちが身につけられるよう教育改革が進められています。

昌平中学・高等学校はIBの中等教育プログラムであるMYPの認定校です。IBの認定校は、「質の高い、チャレンジに満ちた国際教育に信念をもって取り組む」という理念を共有する学校です。昌平中学・高等学校も、このような教育に取り組むことが、生徒にとって大切であると信じています。グローバル社会で生き抜く力を生徒が身につけるために、世界中で評価されている国際バカロレアを導入しています。

### (1) IBの使命：IBの目的を示しています。

「国際バカロレアは、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。」



### (2) IBの学習者像：IBの使命を具体的に人物像として示しています。

学校は学力だけをつける場ではありません。立派な大人になるため様々な経験をする場です。本校は2010年の中学校開校以来、学力とともに人間力の育成を掲げてきました。これはIBの使命、学習者像と重なり、IB導入によって強化されます。



- Inquirers [探究する人]
- Knowledgeable [知識のある人]
- Thinkers [考える人]
- Communicators [コミュニケーションができる人]
- Principled [信念をもつ人]
- Open-minded [心を開く人]
- Caring [思いやりのある人]
- Risk-takers [挑戦する人]
- Balanced [バランスのとれた人]
- Reflective [振り返りができる人]



# International Baccalaureate

## 今日、学校で学んだ知識が20年後も正しいとは限らない

### 【IB授業の特色】

科学分野では新たな発見が行われ、歴史は新たに出てきた事実によって書き換えられ、言語も新しい単語が毎年生み出されています。インターネット上には教科書よりも新しい情報が毎日のように新たに出てきます。そのような中で行われる授業は、知識を学べるだけでなく、将来にわたり役立つものを身につけられる場である必要があります。



生徒主体の授業

大学入試、グローバル社会で役立つ  
思考力やコミュニケーション能力

IBの授業は調べ学習、発表、話し合い等、生徒が授業の中心となるものが多いです。これによって将来、社会に出た時に必要な思考力やコミュニケーション能力等が身につきます。改革が進められている大学入試でもこのような力が重視されます。さらに、自分の頭で考え、そして動くことが多いので授業内容が頭に残りやすいです。



### 【学習の目的】

- × 各教科の知識を覚える
- 得た知識によって、生涯使える概念を学ぶ

各教科はそれを学ぶことが最終的な目的ではなく、実社会を学ぶための手段と考えています。たとえば数学では「二つの三角形が合同であることを証明せよ」という問題があります。証明すること自体が目的ではありません。証明するには論理的である必要があります。証明問題を通じて「論理」を学ぶことが真の目的です。また、合同が世の中にどのように役立っているか検証します。体育ではサッカー等のチームスポーツを行います。技術の向上だけが目的ではありません。サッカーはチームメイトと連携する必要があります。サッカーを通じて「コミュニケーション」を学ぶことが真の目的です。

これらの「論理」や「コミュニケーション」のことをIBでは「概念」と呼んでいます。知識と異なり、概念は古くなることはありません。このような概念や新しい知識を学ぶための手法を、IBを通じて学びます。これにより、生徒たちは本校卒業後も生涯にわたって学び続けることができます。



【時間割】 中学2年生の時間割の例です。

	月	火	水	木	金	土
1 限	道徳	化学	体育	歴史	数学	数学
2 限	体育	数学	地理	英会話	国語	英語G
3 限	国語演習	英語R	国語演習	美術	英語W	音楽
4 限	生物	英語G	歴史	国語演習	体育	生物
5 限	数学	技術・家庭	英語G	英語G	英語R	
6 限	国語	技術・家庭	数学	数学	LHR	
7 限		地理			化学	

※ ■ でかこまれた科目がIB対象科目です。



# [Middle Years Programme] 埼玉県初の認定校

## ルーブリックを活用した評価で生徒を導く

筆記試験、発表、レポート等の課題を教科別に以下の四つの観点で評価します。

教科	四つの観点			
英語	A. リスニング	B. リーディング	C. コミュニケーション	D. 言語の使用
国語	A. 分析	B. 構成	C. 創作	D. 言語の使用
数学	A. 知識と理解	B. パターンの探求	C. コミュニケーション	D. 実生活への応用
理科	A. 知識と理解	B. 探求とデザイン	C. 手法と評価	D. 科学による影響の振り返り
社会	A. 知識と理解	B. 調査探求	C. コミュニケーション	D. 批判的思考
技術・家庭	A. 探求と分析	B. アイデアの発展	C. 課題解決	D. 評価
体育	A. 知識と理解	B. 活動の計画	C. 応用と実践	D. 活動の振り返りと改善
音楽・美術	A. 知識と理解	B. 技能の発展	C. 創造的思考	D. 鑑賞

各教科はこの4観点を伸ばすことを目標とし、授業の中でも強調しています。複数の観点を評価することで生徒が持っている様々な力を引き出すことができます。評価は、ルーブリックと呼ばれる厳格な評価規準に基づいて行います。以下は、中学1年生の2学期に、英語のプレゼンテーションで使っているルーブリックの一部です。

点数	D. 言語の使用
0点	以下のレベルに達しない。
1-2点	暗記は出来ていないがしっかりと読んでいる。声は明瞭ではない。
3-4点	半分程度暗記している。声が明瞭である。
5-6点	2~3回原稿を見るが聞き手のほうに視線を向け、はっきりと聞こえる声で話す。
7-8点	暗記をし、聞き手のほうに視線を向け、はっきりと聞こえる声で話す。

各課題は8点満点で評価されます。このルーブリックは生徒が課題に取り組む前に、教科担当者が配布し、それに沿って生徒は取り組みます。これによって、生徒たちが主体的な活動をする中でも望ましい方向に導くことができます。



## 奉仕活動を通じて社会に貢献する

中学3年生ではMYPの集大成としてコミュニティプロジェクトに取り組みます。これは社会の問題を解決する方法を自ら考え、調べ、実行し、振り返るプログラムです。最終的に発表や論文の執筆を行います。活動の中で、実際に社会で活躍する方々にインタビューをしたり、自分で計画した解決策を実行に移したりします。これによって社会の面白さ、難しさを体験することができます。そして、このコミュニティプロジェクトを通じて、自分が大人になったとき社会にどのように貢献できるかを考えます。

中学1、2年生ではこの準備段階として発展途上国について調べたり、地域の学校に呼びかけて服を集め、「届けよう、服のチカラ」プロジェクトとして、途上国の難民に向けて服を送ったりして、世界の問題に対する理解を深めています。



“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

## 正しい調べ方を学ぶ

IBの授業では、調べたり自分で作品を作ったりすることが多いです。その際に参考にしたり、引用したりした資料は、出典を明らかにする必要があります。また、インターネット上の情報を利用する場合は活用に適したWebサイト、適していないWebサイトがあります。学問を追究する上で必要な力も学習を通じて学びます。これは大学や大学院での研究の際にも役立ちますし、先人の研究成果を尊重した上で新たな発見をすることにもつながります。



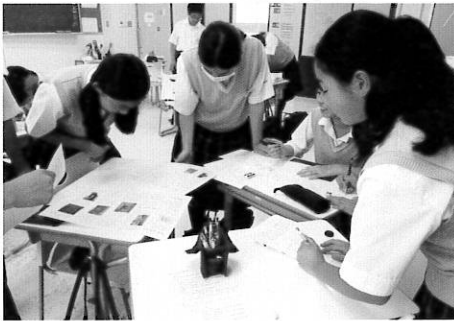
# International Baccalaureate

## 在校生の声

IBの授業をこれまで受けてきた本校生徒の声を一部紹介します。

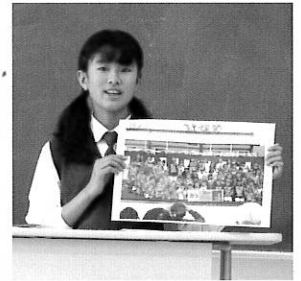
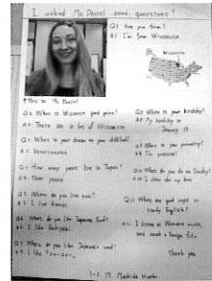
**英**語ではレポートを作成しました。はじめは文法が分からなくて、おもしろおかしい英文になったりしていましたが、その間違いを通して正しい文法を覚えることができました。IBは人前で発表したり、たくさん書いたりすることで記憶に残りやすかったです。

**IB** 授業を受けて自分が変わったことは、小学校まではできなかった「自分の主張」です。僕は今まで自分の意見を言えず、いつも周りの人に流されていました。しかし中学校に入り、それは一転し、グループ活動では自分の意見を述べられるようになりました。



**初**めは分からなくてただ書いていたレポートでしたが、IB授業を受けて書き方を覚えることができ、伝わりやすさを考えて書けるようになったことが、一番自分が成長したと感じたことです。

**発**表後には質問がくるので、そのために不足のないレポートを作成しておくことや、知識が予め必要となります。そのため、先回りして調べるようになりました。今では、「知る」という事に対して楽しいと思うようになりました。IB授業を受けてからは、自信や探求心を持てるようになり、一年でも自分自身が成長できたように感じます。



**自**分の考えとは全く違う人の考えを聞くと、「なるほどそういう考え方もあるのだな」と思います。それで、前よりもっと自分と相手の考え方の違いを比べ、考えることが多くなりました。

**私**は小学生の時、他の人から「声が小さい」と言われ、発表や仲の良い友達以外の人と話すのが苦手になってしまいました。でも、中学では発表時の取り組みがとても楽しくて、発表するのが楽しくなってきました。



**Q** 授業は英語で行うのですか？ 入学前に英語を勉強しておいた方がよいですか？

**A** 日本語で行います。ただし、英語の授業は英語で行うことがあります。入学時の英語力は問いませんのでご安心ください。

**Q** 世界標準の教育は難しそうですが、ついていきますか？

**A** 世界中の学校が高く評価しているプログラムではありますが、年齢に合わせた学習を行いますので難しくついていけないということはありません。教員は生徒の理解度を確認しながら授業を進めます。

**Q** 活発な生徒の方がIBに向いていますか？

**A** 話し合いや発表が多いため、入学したての頃は活発な生徒の方が授業に参加しやすいかもしれませんが、ただし、数ヶ月たてば、比較のおとなしい生徒も経験を積んで慣れてきます。中学校卒業段階ではほとんどの生徒が堂々と人前で発表できるようになります。IBでは発表、創作、ディベート、レポート等、様々な活動があるため、生徒の様々な力を引き出すことができますし、全ての生徒に活躍の場があります。IBを通じて身につける力はすべての人にとって必要です。ぜひ、積極的に取り組んで力をつけてほしいと思います。



**Q** どのような人がIBの授業を教えていますか？

**A** IB機構が主催するワークショップに本校教員が参加しています。また、IBの要件に沿った授業を行うため、各教科担当者は校内での研修にも定期的に参加しています。よりよい授業のため、教員も生徒同様に学び続けています。

**Q** パソコンは多く使いますか？ 自宅にない場合、購入が必要ですか？

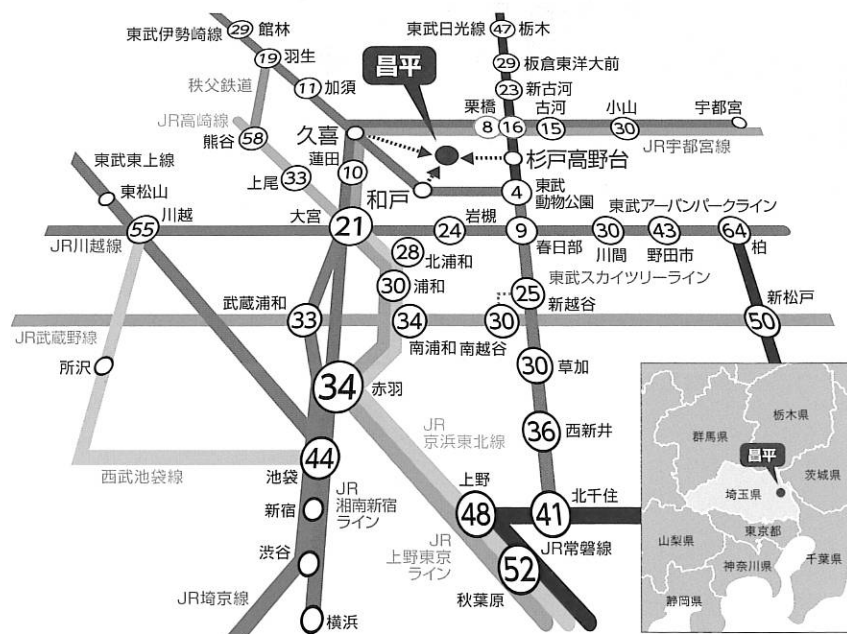
**A** 調べ学習、話し合い、発表等でパソコンやタブレットを使う機会は多くあります。その際、学校のパソコン、タブレットを貸し出します。自宅にもパソコンがあると宿題をする際に便利ですが、なくても支障はありません。



**Q** 基本的な知識がしっかり身につくか心配ですが大丈夫ですか？

**A** 知識がなくては考えることもできませんので基本的な知識も大切にしています。英語では正しい知識や文法を身につけるための授業と、英語の活用を重視した授業があります。数学ではじっくり問題を解く授業と、数学を使ってレポートを書いたり、発表をしたりする授業があります。地道なことにまじめに取り組むことは日本の強みです。これに加え、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等、日本に足りないと言われてきた力をIBによって伸ばします。この2つが合わさることが、日本で育つ人がグローバル社会で活躍するために必要です。

■ 広域アクセス 学校最寄り駅までの所要時間



■ 詳細マップ



**最寄り駅からのアクセス**  
 東武日光線  
 杉戸高野台駅西口から  
 ■徒歩15分 ■直通バス5分  
 JR宇都宮線・東武伊勢崎線  
 久喜駅東口から  
 ■直通バス10分 ■自転車15分  
 ■路線バス5分  
 吉羽大橋バス停下車徒歩8分  
 東武伊勢崎線  
 和戸駅から  
 ■自転車8分

